

食虫植物今年も赤い花

豊明でナガバノイシモチソウ公開

県指定天然記念物の食虫植物「ナガバノイシモチソウ」が七月三十、三十一日と今月一日の三日間、豊明市沓掛町の自生保護地で一般公開された。夏に赤い花を付けるタイプは、全国で同市と豊橋市だけで確認されている日本固有の新種。風に揺れるかんで希少な花を一目見ようと、約六百人が訪れた。



赤い花を付けるナガバノイシモチソウ＝豊明市沓掛町の自生保護地で

県指定天然記念物の食虫植物「ナガバノイシモチソウ」が七月三十、三十一日と今月一日の三日間、豊明市沓掛町の自生保護地で一般公開された。夏に赤い花を付けるタイプは、全国で同市と豊橋市だけで確認されている日本固有の新種。風に揺れるかんで希少な花を一目見ようと、約六百人が訪れた。



ナガバノイシモチソウに止まるチョウ＝豊明市提供、資料写真

今年は、コロナ禍で中止となっていた高校生向けの「知の探究講座」（県教育

委員会主催）の実習や愛知教育大生の見学などが三年ぶりに再開された。豊明高校天文科学部によるボランティアも復活。見学者の検温をしたり、パンフレットを配ったりした二年の中野翔悟さん（さ）は「腺毛に小さな虫が付いていて、食虫植物なんだと実感した」と話した。市生涯学習課の岸田裕夫さんは「自然環境を守り続けていきたいので、若い世代に見てもらえるのはうれしい」と喜んだ。

保護地の公開は年に五日間で、今年は来月十、十一日にも実施。加えて同十、十一日と十月八日には、シラタマホシクサをはじめ希少な植物が生育する市指定天然記念物「大狭間湿地」も一般公開される。いずれも午前九時～十一時半（最終受け付け十一時十分）。雨天中止。☎市生涯学習課 0562(92)8317

（平木友見子）